

第6学年 外国語活動学習指導案

い組 男子18名 女子20名 計38名

指導者 JTE 宮路直子

ALT Christopher Sneller

1 単元 ハローワールド（英語ノート2「行ってみたい国を紹介しよう」）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第5学年「ハローワールド」（「世界の『こんにちは』を知ろう」）の活動を通して、いろいろな国のあいさつを表す言語に慣れ親しんだり、もっとたくさんの国のことについて調べたりしたいという願いをもつようになってきている。また、これまでの学習で世界の国々について知っていることをALTやJTE、友達に自分なりに紹介したり、質問したりする能力を身に付けてきている。さらに、ALTやJTE、友達とコミュニケーションを図る中で、目的や相手、その場の状況を意識して、より適切に自分の気持ちや考えを表現しようとすることの大切さに気付くようになってきている。

そこで、本単元では、行きたい国について調べたことをクイズに表す活動を通して、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を高めるとともに、その国の特色や国旗の特徴、行きたい理由を表す英語に慣れ親しみ、ALTやJTE、友達と協力してコミュニケーションを図る能力を身に付けさせるものである。また、いろいろな国でいろいろな英語が話されているという現状に対する理解や、各国の言語や文化についての興味・関心を深めることもねらっている。

この学習は、日本と外国の生活習慣の違いに気付き、ALTに日本での生活習慣を英語やジェスチャーなど自分なりの表現で伝える「生活習慣を知ろう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、行ってみたい国やその理由を考えることは、その国の言語や文化について詳しく調べてみようという意欲を高めることにつながる。そこでは「どんな言葉が話されているのかな。」「日本とどんなところが違うのかな。」という期待や不安が生じてくると考えられる。そこで、行きたい国のことについて語り合う場面を想定し、そこに必要な表現を考えていく活動を設定することは、外国の人と話をする中で自分の気持ちや考えを積極的に英語で伝えようとする意欲を喚起させたり、お互いに必要な英語を考えて使い、コミュニケーションを図ることができることへの喜びを味わわせたりすることに適している。

このような世界の国々のことを話題にして、そこに必要な英語を用いて表現する楽しさを十分に味わえるようにするために、クイズやスピーチの活動を重視していきたい。また、積極的にコミュニケーションを図る態度を身に付けさせるために、ALTやJTEへ自分なりの方法で積極的に質問させたり、友達と共に学び合う場を設定したりして、必要な英語を用いてよりよいコミュニケーションを図りたいという子どもたちの願いが連続・発展していくように学習活動を展開していきたい。さらに、教師が各国の話を行い文化に対する理解を深めさせて、学習効果を高めていきたい。

具体的にはまず、ALTやJTEが行きたい国を尋ね合うスキットを見せ、外国への興味を高めさせる。その際、行きたい国を紹介するために必要な英語を考えさせる。そして、国名や国旗の特徴を表す英語にリズムチャンツやゲーム活動を通して慣れ親しませながら、スピーチを行うことへの意欲を喚起させるようにする。また、ALTの発音や英語ノートのCDの英語を聞き比べさせ、世界にはいろいろな国のいろいろな英語があるということにも気付かせていきたい。

次に、ALTの母国やJTEの訪問国の様子を語って聞かせ、行きたい国を具体的に想像させる。そして、各国の建物・自然・食べ物等の特色や国旗の色・由来等、紹介したい内容を話し合わせる。それらを表す英語が分からない場合に、ALTやJTE、友達と積極的にコミュニケーションを図る方法をスキットを見せて考えさせ、自分の知っている英語や日本語を用いて、言い換えさせたり

推測させたりするようにする。

さらに、自分が行きたい国を調べさせたり英語ノートにまとめさせたりして、自ら積極的に英語でスピーチを行うことへの意欲を高めさせていくようにする。

このような学習を通して、行きたい国やその理由を表す表現に慣れ親しみながら、ALTや他の外国の人とも積極的にコミュニケーションを図る際に必要な能力を身に付け、英語を使うよさを実感し、楽しく英語を聞いたり話したりして、次の学習へ意欲をもって取り組むことができる。

(3) 子どもの実態 (対象者：い組児童38名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示)

① 外国語活動への興味・関心
ア 外国語活動の授業は楽しいか。 ・はい(36) [・楽しく学習できる。(36)・外国のことが分かる。(22)・外国語が話せて外国の人と交流できる。(10)] ・いいえ(2) [・上手に話せないから。]
イ 自分が好きな活動 ・ゲーム活動(31)・クイズ(20)・ALTの話(19)・スキットづくり(9)・歌(9)
② 活動への興味・既習経験
ア 行ってみたい国 ・アメリカ合衆国(16)・フランス(11)・イギリス(6)・イタリア(6)・カナダ(5) ・オーストラリア(5)・スペイン(3)・オーストリア(2)・ドイツ(2)・大韓民国(2)
イ その国のことで知っていること ・首都(35)・有名な人(34)・有名な都市(32)・自然・建築物(32)・食べ物(31) ・スポーツ(21)・動物(14)・国旗のマーク(23)・デザイン(22)・色(21)
エ あいさつ(「こんにちは」をその国で何と言うか)。 ・アメリカ合衆国(38)・フランス(38)・中国(38)・大韓民国(34)・ケニア(22)
③ 英語が分からないときの対応 [方略的能力]
・ジェスチャー(21)・絵(16)・写真(5) 知っている英語(6) 日本語(3)・
④ 文字への興味・技能
ア 英語で読んで(観て)みたいもの ・外国のテレビ番組(25)・外国の映画(24)・外国で流行している日本の漫画(19) ・外国で流行している日本の映画(17)・小説(16)・絵本(14)・新聞(12)
イ 英語で書いてみたいもの ・手紙(22)・自己紹介文(20)・日記(17)・ブログ(15)・物語(12)
ウ 絵や文字を見て英語で発話できるもの ・赤(38)・☆(38)・イタリア(35)・大韓民国(35)・ピザ(絵)(34)
⑤ 「英語ノート」への興味・関心
・分かりやすい。(18)・いろいろな国の言語が分かる。(11)・自分で復習ができる。(6)

本学級の子どもたちは、外国語活動の学習に楽しく取り組んでいることが分かる。これまでの学習で主に英語に慣れ親しみ、英語を使ってコミュニケーションを図ることができる楽しさや喜びを味わっているからだと考えられる。しかし上手に話せないと感じている子もいることから、英語は言葉であり、大切なことが相手に伝わればよいということを理解させていきたい。(①)

行ってみたい国は欧米諸国が多く、首都等の情報を多く得ていることが分かる。そこでその情報を英語でスピーチしたり国旗を用いたクイズを行ったりして、英語による表現への意欲付けを図っていきたい。また、英語以外の言語によるあいさつにも関心が見られるので、体験的に発話させる活動も取り入れていきたい。(②)

英語が分からないときの対応については、尋ねる方法を自分なりに考えることができるので実際に分からない英語を尋ねるスキットを見せたり、各自も尋ねる場を設定したりして、一人一人が積極的にALTと関わることができるよう支援していきたい。(③)

文字の読み書きについては、多くの子どもが興味をもち、いろいろな表現方法を体験したいと考えていることが分かる。また、絵や文字を見て英語で発話する楽しさも経験してきている。そこで、授業で取り扱う言語材料に関する絵や文字入りの教具を用意し、子どもたちの発話を

促すよう工夫する。(④)「英語ノート」への興味・関心は高く、楽しく使っていることから、教具として効果的に活用したり、個人の状況を把握する際に役立てたりするようにしていきたい。(⑤)

(4) 指導上の留意点

ア 「世界の国々に目を向けよう」の活動では、各国への興味・関心を高めさせるために、行きたい国のことについて語り合うスキットを見せたり、各国の旗や有名な建物、動物や食べ物等を表す英語を用いてALTがクイズを行ったりする。また、世界には様々な英語があることにも触れる。

イ 「行きたい国や理由を発表しよう」の活動では、行きたい国とその理由を伝え合う場面を想定し、必要な英語に慣れ親しませるために、「英語ノート」のスピーチを聞かせたり、発表に必要な表現を用いたゲーム活動を行ったりする。そして、「英語ノート」(p.41)に行きたい国、その国旗、その理由をかかせ、発表に意欲的に取り組ませるようにする。

ウ 活動全体を通して、ネイティブな発音に慣れ親しませるために、ALTの発音の仕方を実際に子どもたちにまねさせたり、「英語ノート」のデジタル教材を活用したりする。

3 目標

- (1) 「外国語を使って行きたい国を紹介したい。」という願いのもと、自分の思いがはっきり伝わるようにスピーチをしたり、積極的に友達のスピーチを聞いたりすることができるようにする。
- (2) 世界にはいろいろな英語が話されていることを体験的に理解することができるようにする。
- (3) 国の特色や国旗の特徴を表す英語を理解し、行きたい国やその理由を紹介する表現に慣れ親しむことができるようにする。
- (4) 分からない表現を、ジェスチャーや絵、知っている英語を使ったり推測したりして、ALTやJTE、友達に積極的に尋ね、コミュニケーションを継続することができるようにする。

4 指導計画 (全4時間)

楽しさの深まり	時間	過程	学習課題と学習活動	教師の具体的な働きかけ	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界に目を向ける楽しさ ○ クイズに挑戦する楽しさ ○ 国名や国旗の特徴を表す英語に慣れ親しむ楽しさ ○ 世界にいろいろな英語があることに気付く楽しさ ○ 外国の様子を知る楽しさ ○ 行きたい国と理由をクイズで考える楽しさ ○ 行きたい国を尋ね合う場面の様子に気付く楽しさ ○ 自分が行きたい国について調べる楽しさ ○ スピーチを行う楽しさ ○ 友達とよさを認め合う楽しさ 	1 (本時)	意欲をもつ	<p>Let's play Country Quiz.</p> <p>I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT や JTE が行きたい国を尋ね合うスキット1を見る。 ・本時の場面と必要な英語について話し合う。(めあての確認) ・国旗当てクイズ^①を行う。(英語ノートp. 37) ・国名や国旗の特徴(色等)を表す英語について知る。(プラクティス) ・リズムチャンツを行う。 ・マジックワード^②ゲームを行う。 ・分からない英語を尋ねるスキット2を見る。[方略的能力] ・カントリーレース^③ゲームを行う。 ・世界には様々な英語があることを知る。(英語ノートp. 36) <p>What country is this? I want to go to Italy, Brazil, Australia, Korea, China, America, Japan, Egypt, red, white, blue, green, yellow, star, diamond, circle</p> <p>Let's listen the speech.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT の母国や JTE の訪問国に関する話を聞く。 ・本時の場面と必要な英語について話し合う。(めあての確認) ・行きたい理由を表す表現を知る。(プラクティス)・リズムチャンツ ・ピッコロ^④ゲームを行う。(英語ノートp. 38) ・目的や相手の気持ちを考えるスキットを見る。[社会言語的能力] ・行きたい国当てクイズ^⑤を行う。(英語ノートp. 39) <p>I want to go to ~. I like ~. I want to see ~. history, pyramids, Sphinx, camel, desert, pizza, spaghetti, soccer, kangaroo, koala, beache</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界に目を向けさせるために、世界地図を黒板に掲示しておく。 ○ 行きたい国を考えることに興味・関心を高めさせるために、ALT と JTE がお互に行きたい国やその理由を尋ね合うスキットを見せる。 ○ 国名や国旗の特徴を表す英語に慣れ親しませるために、クイズやゲーム活動を行わせる。 ○ 積極的にコミュニケーションを図らせるために、分からない英語があるときのALTへの質問の方法を考えさせる。 ○ 世界中の英語の違いを体感させるために、ALTや英語ノートCDの発話する英語を聞き比べさせ感想を発表させる。 ○ 行きたい国を具体的に想像させるために、ALTの母国の様子やJTEが訪問国で気付いたこと等を聞かせる。 ○ スピーチを行う際に大切なことに気付かせるために、話す目的や聞く相手の気持ちを考えるスキットを見せる。 	
	2	つかむ	<p>Let's learn about many countries.</p> <p>II</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行きたい国を紹介したり質問したりするスキット1を見る。 ・本時の場面と必要な英語について話し合う。(めあての確認) ・英語ノート(p.40)のスピーチを聞いて分かったことを記録する。 ・分からない英語を尋ねるスキット2を見る。[方略的能力] ・行きたい国を決めて調べ、英語ノート(p.41)にまとめる。 <p>Hello everyone. I want to go to ~. I want to eat ~. I want to play ~.</p> <p>Let's try the speech.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JTE のスピーチを聞き、スピーチの仕方を知る。(本時のめあて) ・スピーチに必要な英語のプラクティス・リズムチャンツを行う。 ・前時で書いた英語ノート(p.41)をもとにスピーチの練習を行う。 ・スピーチを行い、行きたい国やその理由を紹介し合う。 ・友達の発表のよさを認め合い同じ国の友達の人数を把握する。(英語ノートp. 41) ・これまでの学習を振り返る。 <p>Look at this? Thank you. Why?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際にスピーチを行う臨場感や必要な英語を体験させるために、今まで学習してきたスキットの内容に“Hello everyone.”や“Why?”を加え発話を広げさせる。 ○ 積極的にスピーチに取り組ませるために、英語ノートを活用して行きたい国の情報をまとめさせる。 ○ スピーチの仕方を理解させるために、JTEが初めにスピーチを行い、ALTが発表に必要な英語を慣れ親しませる。 ○ 英語を使って表現することができた喜びや成就感を味わわせるために、スピーチ発表の場を設定し、各自の工夫した点や感想を称賛する。 	
	3	挑戦する・広げる			
	4	振り返る			

5 本時 (1/6)

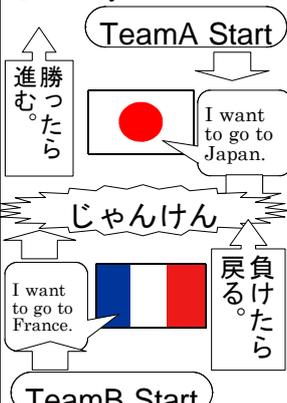
(1) 目標

- ア 国名や国旗の特徴を表す英語を知り、それらに慣れ親しむ活動を通して、ALTやJTE、友達と協力しながら積極的にクイズやゲーム活動に取り組むことができるようにする。
- イ 分からない英語を、知っている英語や具体物、日本語などを使ってALTやJTE、友達に尋ねて、コミュニケーションを継続することができるようにする。

(2) 本時の展開に当たって

- 国名や国旗の特徴を表す英語に慣れ親しませるために、リズムチャンツやゲーム活動を通して体感させるとともに、ALTによる発音指導も取り入れて発話させるようにする。その際、英語ノートのクイズも効果的に活用する。さらに、世界にはいろいろな英語が話されていることに気付かせるために、ALTの発音と英語ノートのCDを聞き比べ、その違いについて考えさせる。

(3) 実際

過程	主な学習活動	予想される語彙や表現	時間	教師の具体的な働きかけ
				◎ JTE ☆ ALT
意欲をもつ	1 Greeting (全体から個人へ) 2 ALTやJTEが行きたい国を尋ね合うスキット1を見る。 3 本時の場面と必要な英語について話し合う。(めあての確認) Let's play Country Quiz. 4 国旗当てクイズを行う。 (1) ALTからの出題 (2) 英語ノートp. 37を活用 5 国名や国旗の特徴(色・デザイン等)を表す英語についてALTと発話する。(プラクティス) 6 リズムチャンツを行う。 7 マジックワードゲームに挑戦する。What's this? 椅子を丸く並べてALTがマジックワードを発話したら座る。(例:Italy)	【SKIT 1】 J: Hello. A: Hello. J: What are you reading? A: It's a book about Italy. I want to go to Italy. Where do you want to go? J: I want to go to Canada.	10	◎ 世界各国を視覚的に想像させるために、拡大した世界地図をホワイトボードに掲示しておく。 ◎☆ 行きたい国を尋ね合う場面の臨場感を味わわせ、そこに必要な英語に気付かせるためにJTEとALTはスキットを行い行きたい国を尋ね合う。
つかむ	8 分からない英語を尋ねるスキット2を見る。 【SKIT 2】 Where do you want to go? I want to go to ドイツ。 どんな方法で「ドイツ」を表す英語を尋ねようかな? 困った表情 国旗を見せたり、国旗の色を示したりすれば? ソーセージ自動車 「ベルリン」と言えばいいのでは? 地図で国の場所を指したらいいのでは? MAP	【基本的な表現】 What country is this? I want to go to Italy. Brazil, Australia, South Korea, China, America, Japan, Egypt, red, white, blue, green, yellow, star, diamond, circle	10	◎☆ ネイティブな発音に慣れ親しませるために、ALTの発音を真似させながら、国名を表す英語を国旗と対応させたり、リズムにのりながら発話させたりする。 ◎☆ 国名を表す英語を楽しく体感させるために、体を動かしながら必要な英語を十分に聞くことで進められるゲーム活動に取り組みさせる。
挑戦する・広げる	9 カントリーレースゲームを行う。I want to go to Canada. 	【Country Race Game】 Team A Start Team B Start 進勝つたら 負けたら 戻る。	17	◎☆ 発話を広げさせるために、国旗を活用しながら“I want to go to ~.”と発話するゲーム活動に取り組みさせる。 ◎☆ 世界中ではいろいろな国でいろいろな英語が話されていることに気付かせるために、ALTの発音と英語ノートp. 36のCDを聞かせて、その違いについて比較させる。
振り返る	10 ALTの発話と英語ノート(p. 36)のCDを聞いて、いろいろな国でいろいろな英語が話されていることを知る。 11 Reflection (学習の振り返り) ○ 感想発表 12 Ending		8	◎☆ 学習への成就感や満足感を味わわせるために、感想交流において、各々のよさを称賛する。